

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	<p>西部地域(ホブド県ならびに近隣4県)の医療体制の充実と患者救済 公衆衛生指導による口腔内の衛生状態の改善と感染症の予防</p> <p>対象医療分野：口腔疾患 特に口腔障害児への手術治療法等技術移転中心</p>
(2) 事業の必要性(背景)	<p>【背景】 モンゴル国では、医療教育・技術水準が低く、国民への医療サービスも十分とはいえず、都市部から遠く離れた僻地になるほど医療を待ち望む患者の状況が深刻という背景がある。不十分なインフラや患者側の経済的な理由で、口腔障害の患者が十分な治療を受けられないまま放置されているケースが多い。口腔障害を伴うことで哺乳困難による栄養失調などが起こり、患者の感染症罹患率が高くなり、乳幼児の死亡率も高めている。</p> <p>【必要性】 首都ウランバートルより最も離れた僻地の一つがホブド県で、インフラ整備、医療、教育いずれも首都に比べはるかに劣る。モンゴル政府の方針でこの地域の基幹病院として近隣4県を含む5県を管轄するホブド県病院(Khovd Regional Center)は、ウランバートル近郊の病院に比べ、拠点病院としての整備に著しい遅れをとっている。広範囲の住民の医療保健体制を改善する為にこの病院を整備する必要がある。</p> <p>当該病院は、ベッド数245床、医師数70名を有する西部地方最大の医療活動拠点であり、施設の改善工事・医療器材贈与を行い、治療・手術技術移転を合わせて行うことで効果的な支援につながると期待される。 (詳細説明1)</p>
(3) 事業内容	<p>地域医療の拠点であるホブド県病院に口腔疾患医療センターを贈与して対象地域の医療体制の充実を図りたい。今回の派遣メンバーが、すでにホブド県での口唇口蓋裂手術を実施し、合わせて調査等実施している。(2009年)当時指導を受けた口腔外科医もあり、本技術移転には意欲的、協力的であり、効果的な技術移転を進めることが可能と考える。</p> <p>日本人医療専門家(口腔外科医、麻酔科医、看護師、言語聴覚士)の派遣により医療関係者への知識・技術移転の実施、一般住民向けの啓蒙活動にて口腔内の衛生に対する意識改革を図る。</p> <p>技術移転には、ウランバートル専門家が協力する。これらの活動によって地域の医療水準と生活全般のレベルアップを図る。 (資料1)</p> <p>(イ) 医療体制の充実： ホブド県病院の手術室改修工事、そして既存の部屋を言語治療室として使う為の改修工事を行う。 モンゴル口唇口蓋裂協会メンバーで、日本口唇口蓋裂協会と</p>

	<p>の協力関係にあるアリヨナ・ガリックフー（モンゴル健康科学大学研究科長）が工事期間中にホブド県病院へ赴き、工事の施工管理を行う。</p> <p>旧式の手術・麻酔機器を使用している状況を改善する。日本より医療器材、薬剤を贈与し、使用法の教示を行う。配備する備品等：全身麻酔器、Suction Unit TAF、高周波手術装置、手術台、ケイセイ万能開口器、替刃メス等消耗品</p> <p>(ロ) 技術移転： 日本人専門家からホブド県病院医療専門家に口腔疾患患者（口唇口蓋裂患者を中心とし、骨折・癌も含む）への手術等技術移転を行う。（詳細説明2）</p> <p>手術、術後の創部のケア、その他術後管理について日本人専門家とホブド県専門家が共同して行うことで指導をする。この共同作業には、日本人専門家に指導を受けたウランバートルの専門家も立会い技術移転をサポートする。日本人専門家が不在の期間は、インターネットを活用して助言・指導するのは勿論、随時ウランバートルの専門家がホブド県を訪問し技術移転を効果的に進める。</p> <p>(ハ) 知識の伝授： 公衆衛生感染予防活動として医療専門家に対し、口腔感染症ならびに口腔ケアについて研修を行い、発症のメカニズムや発症予防法について周知する。一般住民向けには、口腔感染症と歯の保健衛生への理解のための啓蒙活動を行う。（詳細説明3）</p> <p>(ニ) 日本人専門家派遣について： 口腔外科医2名、麻酔科医1名、看護師1名、言語聴覚士1名を、プロジェクトタイムテーブルに基づき派遣する。派遣中にはまず、ホブド県の医師をウランバートルに招いて、研修を行い、その後現地での指導をする予定である。その際、ウランバートルの医師にもさらに高度な技術についても助言指導をし、ホブド県の医師だけでなく、モンゴル国の口腔疾患関連を中心とした医療技術の向上にも資する。（詳細説明4、5）（資料2、3）</p> <p>(ホ) ウランバートルの専門家によるサポート： 日本人専門家不在期間には、技術・知識・経験に長けたウランバートルの専門家（過去5年以上にわたり、日本人専門家により技術移転を受けている）が補佐し、随時ホブド県に向いて技術移転活動を継続する。（詳細説明6）</p>
--	--

(4) 持続発展性	<p>贈与機材に関しては、当協会とのMOU (Memorandum of Understanding) の取り交わし、現地病院側の修理費負担を明記し、機材・器具の貸し出し等の管理体制についても担保する。現地病院長(ホブド病院)が責任者となり、当協会の協力者でモンゴル口唇口蓋裂協会メンバーのアリヨナ先生(モンゴル健康科学大学研究科長)の監督下で、維持管理を行う。その上で、日本口唇口蓋裂協会現地コーディネーター(モンゴル人)が適正利用を行っていることを確認する。機材の不具合を定期的に調査し、使用状況も把握することとする。(詳細説明7)</p> <p>患者へのケア、手術計画などについては適宜メール、ファックスなどを通じて助言をする。</p> <p>口唇口蓋裂手術の技術移転は単年度での完了は困難で、定期的な訪問、評価をし、新たな指導を積み重ねることで完了する。当協会は毎年、モンゴル国へ日本人専門家を派遣し、各地で手術を実施している。ホブド県の医師をウランバートルやその他の地域での手術に同行させ、継続して手術手技や一貫治療の指導を行う。麻酔医や看護技術、言語治療についても日本人が助言しているウランバートルの専門家と共同して助言・指導を継続する。</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ) 手術室・言語治療室の改修工事をし、医療環境の充実を図り、口腔疾患治療に必要な機材の導入と使用法の指示により、医療関係者の意識、技術の向上(口腔外科医2名、麻酔医1名、看護師数名、言語聴覚士1名)が期待できる。(直接裨益者10名程度)</p> <p>(ロ) 未治療、未手術のまま現在に至っている多くの口唇口蓋裂患者の疾患からの解放が可能になる。同時に精神面のサポートができ、生活レベルの向上も促すことが期待される</p> <p>(ハ) 全身麻酔手術の安全性が飛躍的に改善され、口腔疾患手術のほか外科、小児科での手術にも対応できるようになる。(年間裨益者数200名)</p> <p>(ニ) 医療関係者(70名)・一般住民(150名程度)を対象に口腔衛生についての正しい知識と予防法を伝授することにより、感染症の予防を行うことができる。(年間裨益者数220名)</p>